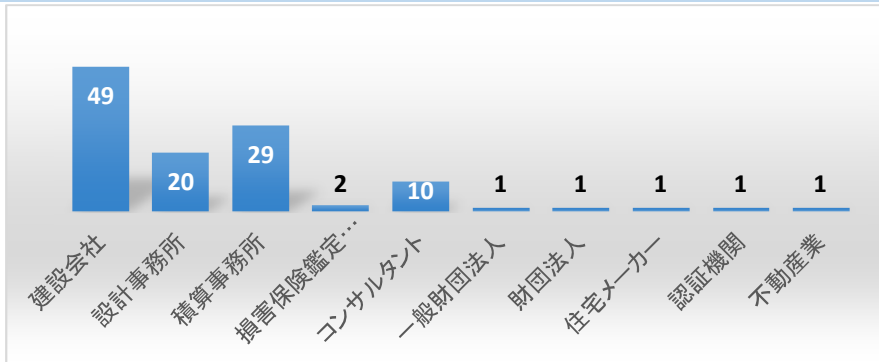


テレワーク／リモートワークに関するアンケート結果

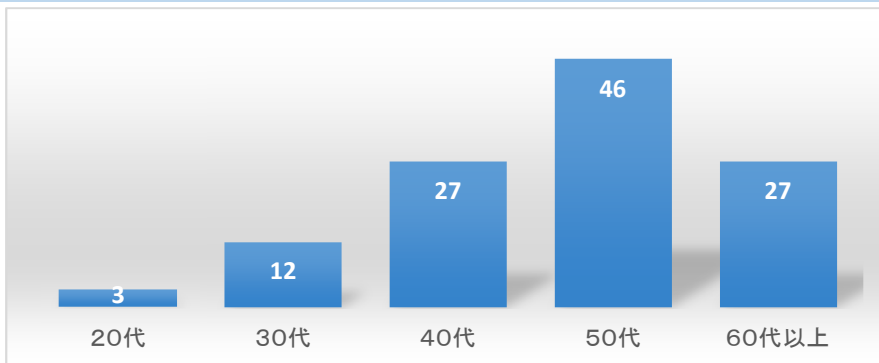
この度は、アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。アンケートの集計結果とお寄せいただいたご意見をご報告させていただきます。

新型コロナウイルス感染症対策として、テレワーク導入が急速に進みました。しかし、その動きは大手企業が中心で、中小企業ではあまり進んでいないのが実状です。積算業務、コスト管理業務でもテレワークが出来るのか、他社がどのような対策をしているか？知りたい人も多いのではないのでしょうか。当協会に関わる皆様で情報を共有し、この状況を乗り越えましょう。

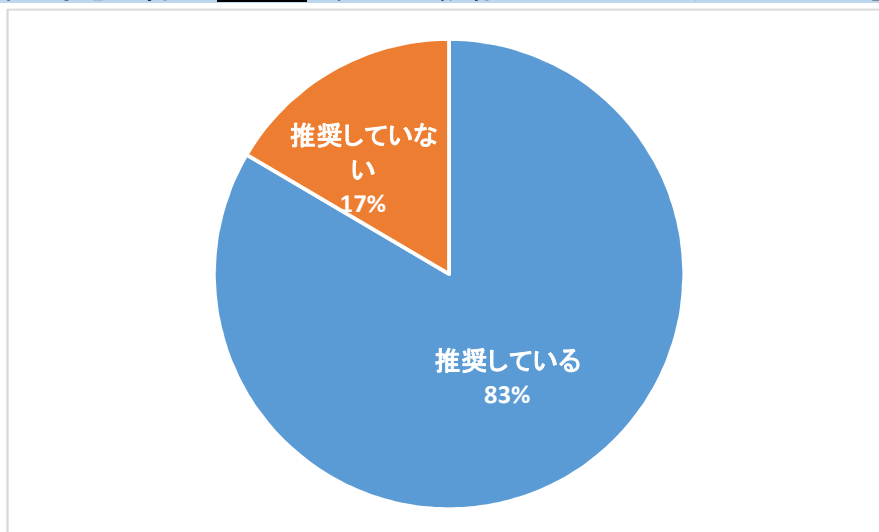
1.アンケートにご協力いただいた方のご職業



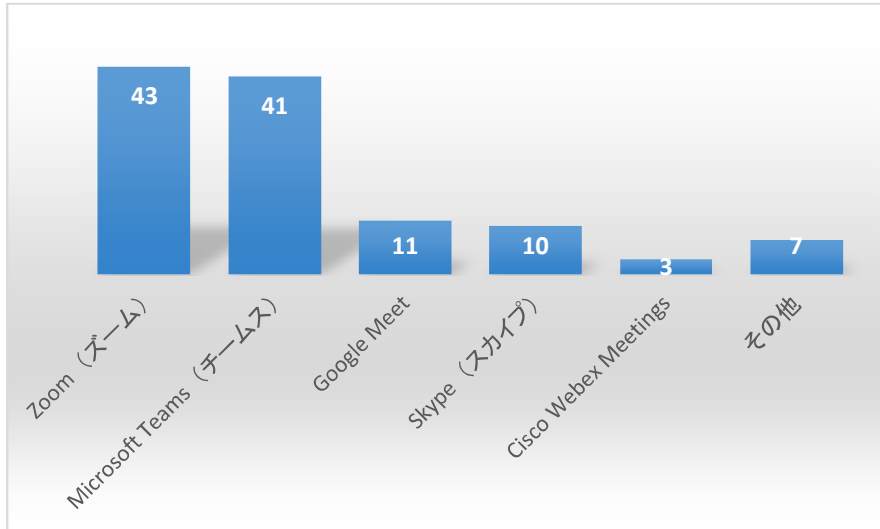
2.年齢



3.緊急事態宣言の”期間中”あなたの職場はテレワーク／リモートワークを推奨していましたか？



4.「推奨している」と回答した方に質問です。
 ”TV会議、リモートミーティング”などに利用したアプリケーションを教えてください。(複数OK)

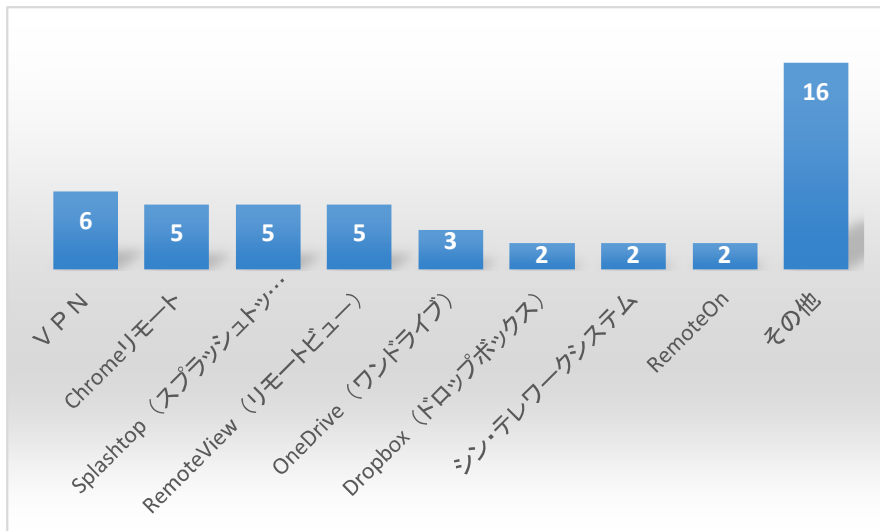


その他

LINE(ライン)、Slack(スラック)、Google ハングアウト、LINC Biz(リンク ビズ)、V-CUBE(バイキューブ)



5.「推奨している」と回答した方に質問です。
 ”その他”テレワーク/リモートワークを行う際に取り入れたツール、ソフト等を教えてください。

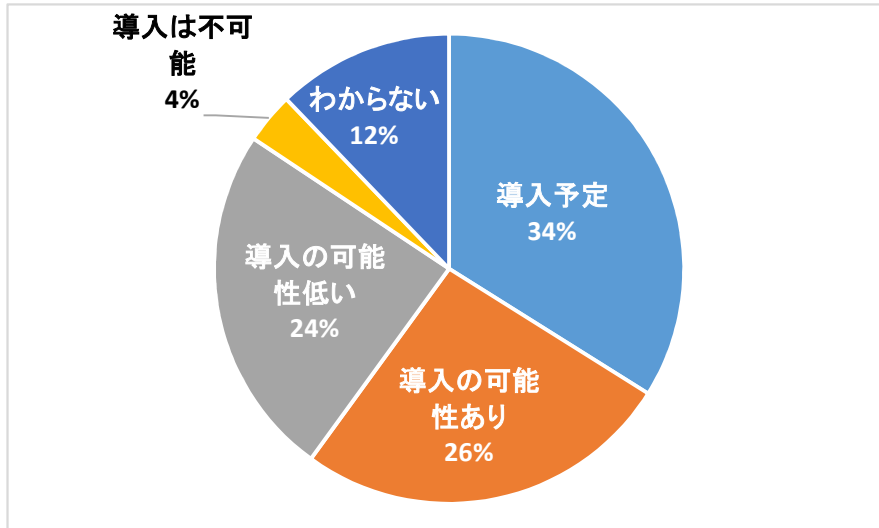


その他

Microsoftリモートデスクトップ、BIG-IP Edge Client、Online ScreenView、Bluebeam Revu、TeamViewer、Jump Desktop、kintone(キントーン)、BIM360/Docs(施工ドキュメント管理ソフトウェア)、Googleカレンダー、office365、SPG-Remote、urecy(ウレシイ)、Zscaler(ゼットスケラー)、MagicConnect(マジックコネクト)、CACHATTO(カチャット)

6-1.緊急事態宣言”解除以降”

今後のあなたの職場でのテレワーク／リモートワークの導入可能性について



6-2.「導入の可能性低い」「導入は不可能」と回答した方に質問です。

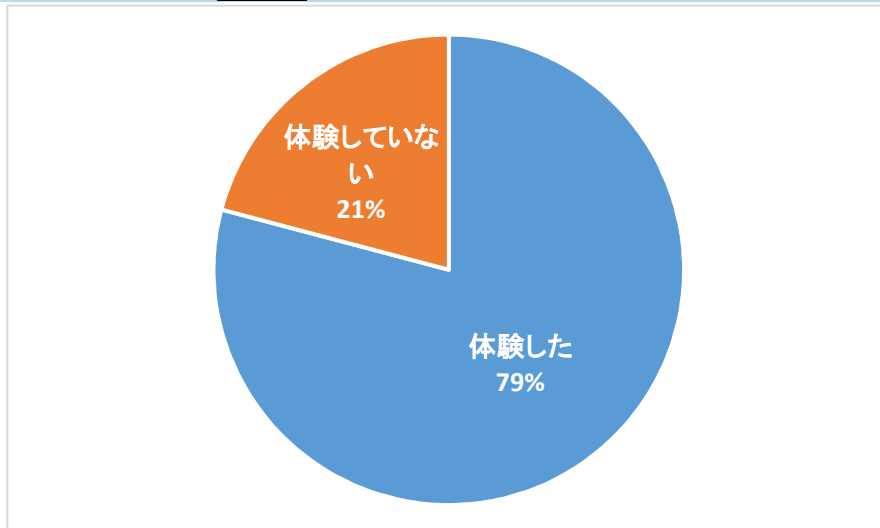
その理由はなぜだと思いますか？（社員の方、推測でOK）導入困難な理由はなぜですか？（経営者の方）

※同じような内容の意見がありますが、皆様の生の声を参考にさせていただきたく、そのまま掲載しております。

- ・ 建設会社は現場で働く者が圧倒的に多く、テレワークで対応できたのは一部内勤の者のみだったから。
- ・ 各自の業務進捗状況の確認が難しい。本格的に導入するためには、歩合制にする必要がある。（経営者）
- ・ 仕事内容でのテレワークが難しいから。
- ・ 高齢者が多い。
- ・ 教育が困難。
- ・ 社員に配布するパソコンが少ない。（社内で使用しているパソコンは持ち出し不可及び自宅に有る個人のパソコンも使用不可の為）
- ・ 不便だから。部分的に行う事は可能。
- ・ 専門プログラムが必要で家の非力なマシンでは動作しない為。
- ・ 部署の方針が在宅推進ではないため。
- ・ 会社の方針が、出社が前提となっているため。
- ・ リモートで仕事をするための設備投資が困難。（金銭面および各人の設定等）
- ・ 資金上の為。
- ・ 職員自宅は業務を出来る環境にない場合がほとんど、貸会議室・ビジネスホテル等で行う場合ネットワーク構築やセキュリティ対策に費用がかかる。又、図面はもとより様々な資料を閲覧もできない、業務の進行状況等の把握がしにくい。
- ・ 業務上共同での作業が多いため。（ただ、部分的には独立性の高い業務は可能）
- ・ 業務の打合せ、連絡がメールや電話では伝わりにくい。勤務時間・残業時間の管理が難しい。通信環境により作業効率が変わる。図面の持出し・セキュリティの問題。A3印刷が難しいなど。

- ・ 非効率と考えていると思う。
- ・ 昔ながらの考え。
- ・ 資料が持出せない。
- ・ 建築の現物を扱っているときは不可能。
- ・ 積算部分は、ほとんどネット情報交換で、訪問したくてもできますが、設計部分は、直接指示が必要な部分が多いので、全部ネット説明は難しい。
- ・ 会社の上部の人間が固守的な考え方の方が多く新しいことに踏み出せない。
- ・ 旧体質・旧発想が根強く残ってる為、社内外に対しても対面での仕事が基本という考えが根強く、浸透は難しい。
- ・ 社員が少ない。
- ・ セキュリティーの不安。
- ・ セキュリティー、費用、最終決定者が反対だから。
- ・ リアルタイムのコミュニケーションが取り難い。急な展開に対応しにくい。
- ・ 仕事の効率が落ちたとの考えが多数派の為。
- ・ 設計側の仕事の効率が悪かったので、積算も不可になる。社員を信用していない。

7.緊急事態宣言の”期間中”、あなた自身はテレワーク/リモートワークを体験しましたか？



8-1.テレワーク/リモートワークを「体験した」と回答した方に質問です。 体験した感想をお聞かせください。(何でも結構です。ご自由にお書きください。)

※同じような内容の意見がありますが、皆様の生の声を参考にさせていただきたく、そのまま掲載しております。

■良かった、特に問題はなかったという意見■

- ・ 通勤時の感染を心配する必要がなく、また通勤ラッシュを抑制でき、通勤にかかる時間も省略できるので、効率的でよかったですと思います。
- ・ 週2日程度であれば、テレワークでも全く問題ないと感じた。

- ・通勤に時間がとられず、睡眠時間や勉強の時間に充てられた。電話対応等不要の仕事が減った。
- ・会話には問題ないと感じた。
- ・作業効率事務所と同じ環境が自宅で出来れば資料などはwebなどで閲覧出来るようになってきているので特に問題ないと思う。チームでの作業もチャットのアプリで逆に伝達などスムーズに行える。
- ・作業に専念できるので、仕事がはかどる。
- ・特に問題は生じていません。
- ・感染のリスク回避になり安心して暮らすことができた、通勤時間の大幅削減によりプライベート充実につながった。
- ・通勤のための時間が不要なので楽だった。
- ・リモートソフトで会社のPCを遠隔操作していたが、特に不便には感じなかった。
- ・急なことで、慣れない環境でのスタートでしたが、通勤時間が無くなることで、多少心と体に余裕をもって対応できました。
- ・快適
- ・今回は新型コロナウイルスの影響ということもあり、満員電車の感染リスクが避けられ、テレワークは安心感があつた。また、通勤に要する時間も削減でき、自分の時間も持てて、非常に良かった。
- ・会社のデスクトップPC・モニターを自宅に持ち帰り、自宅有線LANからVPN接続を行った。これによりノートが使用可能となり会社のメール、掲示板、勤務報告書の作成が出来た。積算業務は積算ソフトをメーカーより期間限定でネットワーク版を無償貸与していただき業務継続可能となった。自宅ではプリントアウトが思うように出来ず積算資料の閲覧が難しい環境だったがデュアルモニターのみでどうにか対応できた。
- ・業務対応可能、取り入れたい。
- ・とても良かったです。
- ・通勤時間がずらせてよいと思った。
- ・テレワークのために特別給付金で高性能パソコンを購入したが、きわめて快適に業務をこなせた。
- ・通勤時間の削減の分プライベートの時間を確保できるようになったため、精神的な余裕が生まれた。
- ・思ったより、仕事ができた。
- ・モニターの2画面化などハードの整備と資料のデジタル化といったソフトの両方が対応しているので、業務に支障はほとんどなかった。リモート会議についても数回経験すれば資料が画面で見える分効率的と考える。
- ・意外に仕事はこなせることがわかりました。

■テレワークは出来た(まあまあ良かった)が、改善点ありという意見■

- ・会社PCを持ち帰り作業したのだが、セキュリティに不安が募った。また、自宅の通信環境が整っておらず、データのやり取りに時間がかかった同僚がいた。
- ・私は問題なく業務にあたる事が出来ましたが、自宅に個室が確保出来ないと難しいと思います。子育てを終えた高齢者には適した形態ではないでしょうか。個人的には、現在も60%程度はテレワークとしています。

- ・ 通勤時間が短くなり体力的に楽になった。しかし、用事があるがなかろうが週1以上で本社(23区内)への出勤が義務化されていてリモートの意味が薄れている状態になっている。
- ・ 数日だけなら仕事を選別してテレワーク可能。1週間に2回は出社して調整と準備が必要。
- ・ 在宅勤務中は、不便さはあまり感じない反面、出社時と比較すると業務効率は、80%程度ではと思う。宅配対応、降雨時の洗濯物の取り込み等々で業務が中断する。
- ・ 在宅勤務では仕事内容によって向き不向きがあるため、効率の良い作業を持ち帰って行いました。通勤がないのでとても楽になり、時間を有効に使えました。
- ・ 仕事上の”作業”の部分については何ら問題なし。(ただし自宅に相応のPC作業環境は作りましたが)ミーティングで直接顔が見えない事でのニュアンスのようなものを読み取りにくい。ミーティング資料等はPC画面で直接見ることができ分かりやすい。リモートでも遜色なく仕事はできると思いますが、コミュニケーション不足を感じているので、週一は出社するなどコミュニケーションについては考慮が必要と考える。
- ・ 資料の種類が少なくパソコンでの作業であれば在宅の方が効率が良い。画面が小さい分、資料の種類が多く、多くの人と調整がある作業は一長一短である。仕事の種類を考えて行えば十分利用できる。
- ・ 緊急事態宣言解除後もテレワーク継続中です。以前の様に全員が毎日出社する必要はないとの判断です。社員アンケートでは91%(社員数200名ほど)がテレワークに違和感なく継続希望と回答していました。
良い事:通勤によるストレスがない。Web会議の為、打合せへ先への移動時間が無く時間を有効に使える。会議時間が予め決まっているので資料がきちんと用意されている。集中できる。場所を選ばず仕事ができる。家族との時間が確保しやすい。予定の調整がし易い。
気になる事:Web会議では場の空気が読み難い。情報は積極的に取りに行かないと判らない。評価に関しては、目に見えていないので成果主義になってしまう懸念がある。部、課などのチームとしての存在意義や価値を共有する必要があると感じる。ON/OFFの切り替えがし難い事もある。予定が詰まりすぎる。
- ・ 会社と全く同じ環境で仕事をする事は難しい。毎日は無理だが週1、2日程度のテレワークは通勤ラッシュ緩和や気分転換の意味で導入してもいいと思う。
- ・ 通勤時間の節約、効率的な資料作成、直接対面が必要な会議にはもう少し工夫が必要か。
- ・ 会議で聞こえずらいことは、あったが、業務に支障はとくになかった。すべてが、リモートワークでできるとは限らないので、在宅勤務と出社勤務と併用して、うまくやりこなすが大事と感じた。
- ・ ICT環境やPCが整っていれば、個人単位の生産性は出社勤務とテレワークは変わらない。ただ、若年層への教育などは難しく、能力に応じたリモートワークを考える必要がある。
- ・ 作業効率は落ちるが、通勤時間が有意に使える。
- ・ 運動不足による体力低下を感じる。今後の仕事のあり方としては良いと思う。まだまだ試行錯誤の部分は多いが今後も続けていくべきだと思う。
- ・ 在宅でも問題無く出来る事と出来ない事がわかり、解決方法が具体化され、気づきになった。急ぎではない仕事を在宅で行うと、捗らなかった。
- ・ 個人的な業務消化は問題ないと思われるが、社員教育(特に若手)については、対面の重要性を感じた。
- ・ 機器やソフトによる差はあれど、社内で行う業務の大半は可能。
- ・ コロナ騒動前から、遠隔地のコミュニケーションで使用していたので、特に変わりはありません。それよりも、社内セキュリティの問題の方が大きく、その対応が大変でした。

- ・システム管理が整っており、オフィスでの仕事と遜色ない環境で仕事が出来た。積算業務上、唯一の欠点は紙ベースで確認しないと分かりづらい図面を会社に取りに行く必要があった事。また、同僚が年配でITに弱かった為、テレワーク中の業務は自分にかかなり偏った不公平感があった。上長の監視もやや強くなり、そういう面もやりづらかった。
- ・多少効率は落ちますが、通勤時間を有効活用しています。
- ・通勤時間を有効的に利用できることはよかったが、OJTや若手職員教育など課題も感じられた。
- ・やってみると案外仕事はできるものと感じた。通信環境があまり良くなかったので、社内サーバーとのデータのやり取りで難あり(通信速度、容量制限など)
- ・通勤時間のロスがなくなって時間を有効に使えるようになった。仕事はある程度はかどりましたが、続けるうちに曜日の感覚が多少なくなった。
- ・当事務所の問題かと思いますが、サーバーに、保存してある、データを修正するのが、手間がかかる。顧客に提出資料の打ち出しが、事務所での作業より、費用が掛かる。
- ・職場と同じ環境にはならないが、積算だけなら在宅でも何とかなる事が分かった。
- ・やってみると思いのほか出来るもんだと感じた。しかし、得意先や案件発注者もテレワークとなり、業務の進行自体がスローペースになったので、対応できた部分もあるかと思う。繁忙状態でテレワークで対応しきるのは難しいと感じた。
- ・LINEは音声に問題あり。Teamsは関係のあるプロジェクトチームの限られた少人数単位には有効、Zoomは百人千人単位の大人数には有効。音声や背景の設定にもいい。
- ・移動時間や必要経費を使わずに、打合せや説明ができるので、コロナの様なウィルス感染がいつ広がるか予測できない現代社会においては、今後復旧していただきたいスタイルだと思います。
- ・在宅の環境の方が、業務に集中できた。図面等の紙資料が必要だが、自宅には印刷機器(A4のみ対応可)が不十分で、リモートワークのみでは対応できなかった点が不満だった。

■あまり良くなかったという意見■

- ・会社内と同じような備品類が無いと、不便を感じる。
- ・通勤に要した時間を業務に充てることができるので、逆に長時間労働となった。
- ・コスト資料の会社から自宅への移動(運搬)が大変。仮にコスト資料を全てパソコンに取り込んだとしても、パソコンの画面だけで内訳書とコスト資料を交互に見ながら業務を行うのは結構大変。効率が落ちる。
- ・通信環境を整備しておかないと作業効率が低下する。
- ・モチベーション維持が難しい。
- ・細かいニュアンスが相手に伝わらない。
- ・職場ではまだまだ【紙媒体】や【捺印】が必要な状況なので、どうしても出社が必要になっている状況です。
- ・iPhone主体なので、画面が小さい。WIFIの環境が無い場合はギガがなくなり、益々不便になる。
- ・疲労感が大きい。
- ・床で生活しているので仕事は無理でした。

- ・ 顧客とのコミュニケーションをとることがむずかしい。通勤にとられる時間を業務に回せる反面、公私の切り替えむずかしい。他人を意識しなくて仕事ができる。
- ・ 各社員の自宅の環境により、ネットワーク環境やパソコン・モニターの設置できるスペースや携帯電話の支給など様々な問題があります。
- ・ ダラダラと仕事をしがち。通常より時間がかかってしまうこともある。
- ・ 自宅勤務は効率がわるすぎる。
- ・ 積算の場合、図面(紙データ)の必要性。
- ・ 遠隔操作のラグが酷く、入社しての作業に比べ大幅に時間がかかる。また、紙で印刷しなければならない場合、家にプリンターが無いので、スポットで入社する必要がある。
- ・ IT環境は揃っても、効率は落ちると思います。
- ・ 時間がかかる。(資料等の理解度が薄い??)
- ・ 表面上の会議にしかならず中身のある会議にはならない。
- ・ 通信環境が悪いのかパソコンの動きにストレスを感じた。図面を広げにくい。普段2画面での作業だが自宅パソコンでは2画面に出来ない為、作業効率が悪く積算に時間が掛かった。
- ・ 面倒
- ・ 会社では図面を広げて積算作業をしているが、自宅では作業スペースが狭くあまり広げられなかった。
- ・ 自宅で業務行うために環境を整える必要がある。通信環境、大きなモニター(図面を扱うので)、机、椅子、できれば書斎のような個室。手書き資料のデータ化が在宅では難しい。スキャナが欲しい。通勤時間がない分、生活に余裕ができる。
- ・ 会社での業務に比べ 効率が4割程度落ちる。
- ・ zoomによる会議を実施したけど、準備など環境整備にコストがかならないようにするのが、面倒だった。
- ・ 自宅ではノートパソコンなので画面上で図面や資料を見ながらの積算は困難な為、図面や資料を持ち帰らなければならないのが多少困難でした。
- ・ 会社よりも通信及びPCの反応速度が遅い。TV会議ソフトでは双方向的な会話が行えない。ディスプレイ環境が会社より劣るため、設計図や各種文書の確認や比較がしづらい。
- ・ 印刷環境が整備されていないので不便。リモートの画面は操作が重たい。
- ・ 子供が小学生なので、何かと仕事以外の手間がかかる。
- ・ 1画面かつ画面が小さく、やりづらい、ちょっと聞くことができないというストレスがある。
- ・ 簡単な指示、伝達内容でも細かい内容まで明確にしないと余計なメールのやり取りが増えてしまう。結果、メールの量が数倍に増えてしまう。
- ・ 効率が下がった。

■その他意見■

- ・ 年中テレワークなので特に変わったことはない。
- ・ コロナ禍の前からテレワークと同じ状況。
- ・ 通常業務がテレワークなので。

8-2.テレワーク／リモートワークを「体験していない」と回答した方に質問です。

体験していない理由、体験出来ない理由を教えてください。

(何でも結構です。あなたの思いをぶつけてください)

※同じような内容の意見がありますが、皆様の生の声を参考にさせていただきたく、そのまま掲載しております。

- ・ 会社から資料の持ち出しが出来ないため。
- ・ テレワーク等の仕事に出会わない。
- ・ 自宅に個人専用のPCがない。
- ・ 家庭内環境が整っていないから。
- ・ 環境が不備。
- ・ 設備が整っていない。
- ・ 社員に配布するパソコンが少ない(社内で使用しているパソコンは持ち出し不可及び自宅に有る個人のパソコンも使用不可の為)パソコンが使用出来ないと業務は何ひとつ出来ない為。
- ・ 段取りが出来なかったため。家での作業台などの設備がないため。
- ・ 自宅に自分用のPCがない。(会社で使用しているPCはデスクトップ、貸与PCはノートだが台数不足)PC及びネットでトラブルがあるかもしれないため出社で対応。
- ・ テレワークをやる環境が整っていなかった為。
- ・ 環境が整っていない。
- ・ 家に仕事ができるスペースが無い。
- ・ 環境がない。
- ・ 自宅、もしくは別の仕事場を利用して業務を行うことを現在まで考慮していない。能率が落ちると考えている。
- ・ 職務上できなかつた。
- ・ 自分の家でのPC、インターネットの環境が整っていない為。
- ・ テレワーク環境が整っていなかったため。
- ・ 会社が三密の環境ではない。
- ・ リモートワークでは仕事がしづらい。

9.その他、ご意見をお聞かせください。(何でも結構です。ご自由にお書きください。)

※同じような内容の意見がありますが、皆様の生の声を参考にさせていただきたく、そのまま掲載しております。

- ・ テレワーク前提で求人募集(正社員)をしたいと考えています。

- ・ 各ツールについても急にメジャーになりましたが、ここでフェードダウンせず今後更に取り組みやすい環境が出来ると良いと思います。
- ・ 顔を合わせなければ不安な人がまだまだ多すぎる。不安軽減のためにもパソコン(のチャットツール等)を使いこなす努力をしてほしい。
- ・ 現場ワーク以外のデスクワークは、今後もリモートワークが増えると考えます。
- ・ リモート会議は内容によってはリアルで対面したほうが良い場合もある。また、意思疎通がメールだけでは難しいと感じる面が多々あった。(毎日100通以上のメールを受信する)
- ・ 第二波・第三波に備えて、コスト資料を全てパソコンに取り込もうと考えている。
- ・ 出来ればテレワークはやりたくない。
- ・ 昼食時や退勤時に利用していたお店が人が大量に居なくなって次々と閉店して都市部が空洞になりませんか。
- ・ 業務管理(スケジュール)を個人に任せることで、進捗状況をこれまで以上に上長含めて把握していなければ、新規の業務も入れていけないことになりかねない。一定の信頼はしているものの、信用しきれない部分も個人的にはある。部下は放置しないで、なるべくいままで以上にコミュニケーションをとる必要があるだろう。
- ・ 上職者からすると確認したいときに近くにいないため出社している側に負担をかけているとのこと。100%同じ状態は不可能。上職者の理解と出来る限りの設備を充実、今後の工夫改善を行い推進していくべきである。
- ・ まだ完全に収束していないこともあり、2割程度はリモートで在宅勤務としています。職場という環境の良さ、仕事のやり方など、改めて考え直す良い機会になりました。人とのコミュニケーションは大事なので、今後は在宅と事務所出勤のバランスをうまく取とれればと思います。
- ・ 理由をつけてネガティブキャンペーンをはる人は大勢いるが、言訳(幻想)に過ぎない。
- ・ 都のリモートワーク助成金の支給が2か月経つが未だにおりていない。
- ・ いずれにしても会社主導でやらないと実現は困難。それが日本の会社の実態。
- ・ 仕事の中身、やり方によって、ふさわしいテレワーク、リモートワークの開発が必要か。
- ・ できる作業はリモートでやった方がよい。
- ・ 基本的には会社での作業がリモートでも可能だったが、作業性は良くないです。
- ・ 変わらざるを得ませんが、良いことなのか分かりません。
- ・ 世の中の仕組みが変わっていくこともあるので、注視し、取り入れられるか判断していきたい。
- ・ コミュニケーション不足になりがちなので気を付ける必要があると思う。
- ・ 早くこの状態が納まってほしい。
- ・ 事前にある程度の資料のやり取りをしていて、みんなが集まったの会議は結論を出す場としたほうが効率的と思われます。
- ・ 職種により出来る会社は限られてくると思います。
- ・ あまりやりたくない。

- ・ 仕事をマスターしていればテレワークの方がモチベーションは上がります。(その方の環境にもよると思っています。)
- ・ 今後、第二波または新しいウィルスが流行するかもしれないので、リモートワークの準備をしておく必要はあると思います。
- ・ 積算の仕事の多様性が増した。
- ・ 移動時間が少なくなり、生産性があがり、交通費等の経費を削減できる。また、積算はジョブ型人事制度向きなので、経営者からしたら実行しない手はない。
- ・ テレワークの流れは無くならないと思う。増えていく傾向にあると思うが、テレワークに合わせた仕事の仕方を見つける必要がある。
- ・ テレワークは働き方の選択肢として有効であり、今後もの恒常的にシステム化すべきだと思う。また、地震、洪水、積雪等で出社が困難になった場合にも業務可能である。
- ・ 設計作図者の仕様書 理解 重要性を理解できていない人が増えて、積算する側からの質疑が増えて、図面チェック係りみたいになってきているので、設計事務所の公共施設設計者の質の向上を望みたい。
- ・ 今後在宅ワークが支流になるとは思われますが、現在どの会社も手探りで導入に踏み切れていない状態です。積算協会様の方で事例や手順、メリット・デメリットなどをまとめて紹介して頂けると会社も色々検討してくれると思います。よろしくお願いします。
- ・ 持ち帰る資料も含め、作業内容が確定しなければリモートワークできず、リモートワークに適した業務が無い場合はリモートワークが認められないので、『完全に導入する』という訳ではなく『限定的に導入できる』という状態だと思います。
- ・ 設計図はじめ使用する文書は多岐にわたるので、テレワークで通常業務を完全に置き換えることはできないと思われる。
- ・ 積算業務はリモート可能なので、もっと幅広く同業者に定着する事を願いたい。今回のウィルスに限らず、災害が多い日本においては、必ずオフィスで業務する必要はなく、臨機応変にテレワークの定着・導入を急いだ方が良いと感じた。
- ・ 印刷環境の整備等、在宅勤務で解決すべき課題は多いと考えます。
- ・ 顔を合わせない分、チームでのコミュニケーションを取るうえで様々な工夫をしております。
- ・ どうしても効率が落ちるので、仮想画面でなく、もっと動きのいい環境が欲しい。
- ・ テレワーク/リモートワークは時間を有効に使える。まだ解決しなければならない問題点は色々あると思いますが、新しい生活様式として今後定着すればいいと思います。リモートミーティングのソフトがまだよくわからないので、費用面も含めて使いやすくなればいい。
- ・ 「積算」という仕事は、在宅勤務しやすいと思います。専門の積算事務所等はどの様に、対応しているのか知りたいです。
- ・ 企業と自身の考え方と環境整備が整えば、テレワークは効率的な働き方と考えられます。通勤や外出が減り太りましたが…。
- ・ 状況に応じて使い分けが必要ですが、今後もリモートワークは広がっていくと思います。このトレンドが不動産価格に与える影響を注視しています。
- ・ 電子情報のみで、概算・積算できる工夫が必要。同業者間で情報共有したい。

■積算協会への要望■

- ・ 積算協会の水曜講座をeラーニングで行ってほしい。
- ・ 協会でシステム1式購入で、希望者に貸し出しとかできませんか？

以上、ご参考になりましたら幸いです。

■公益社団法人 日本建築積算協会 関東支部
■ホームページURL:<http://www.bsij-kanto.com/>